

進級時における学級規模の差と進級後の授業中の学習行動や家庭学習の取り組み状況の変化

調査対象校種	中学校
調査対象学年	第2学年

- 在籍する学級の規模が従前より大きくなることで、生徒の学習に対する取り組みの状況に影響を与える。特に家庭学習の取り組み状況において、好ましくない方向に変化する生徒が増える。
- 教師が直接的に指導しない学習活動である家庭学習に対して、学級規模の影響が見られると考えられる。

目的 — 第1学年時と第2学年時の学級規模の差と、第2学年1学期（第1回調査：7月）から2学期（第2回調査：12月）にかけての授業中の学習行動の変化ならびに家庭学習の取り組み状況の変化との関係を検討。

調査対象校 — ある県における中学校のうち、平成21年度第2学年の学級数が義務標準法による試算上2学級以上、かつ学級あたりの生徒数が34名以上であった48校。

調査対象生徒 — 平成21年度に実施した「学級規模が生徒の学習行動に与える影響」の調査において、2回分の調査データのある6752人。

方法

7月 学級担任が担任している生徒に全てに対して個別に評価

1月 学級担任が担任している生徒に全てに対して個別に評価

評価結果を個別に対応づけることで変化を把握

この生徒は授業中集中している……	常にあってはまる	……	だいたいあてはまる	……	ときどきあてはまる	……	あまりあてはまらない	……	全くあてはまらない
この生徒は授業に積極的に参加している……	常にあってはまる	……	だいたいあてはまる	……	ときどきあてはまる	……	あまりあてはまらない	……	全くあてはまらない
この生徒は宿題をしている……	常にあってはまる	……	だいたいあてはまる	……	ときどきあてはまる	……	あまりあてはまらない	……	全くあてはまらない
この生徒は宿題以外の家庭学習をしている……	常にあってはまる	……	だいたいあてはまる	……	ときどきあてはまる	……	あまりあてはまらない	……	全くあてはまらない

和得点

授業中の学習行動 (2点～10点)

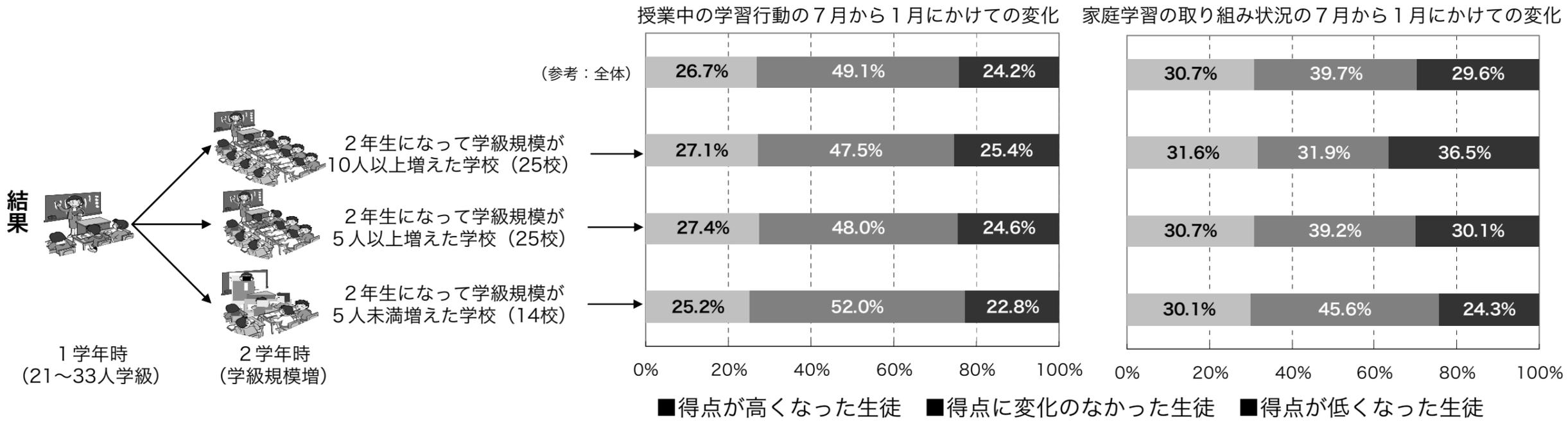
家庭学習の取り組み状況 (2点～10点)

7月 (6点) → 1月 (8点) 正の変化 1月の方が得点が高い

7月 (5点) → 1月 (5点) 変化なし 7月と1月の得点と同じ

7月 (8点) → 1月 (7点) 負の変化 1月の方が得点が高い

- 1回目、2回目のそれぞれの調査における、授業中の学習行動（「授業中集中している」「授業に積極的に参加している」）および家庭学習の取り組み状況（「宿題をしている」「宿題以外の家庭学習をしている」）について、各2項目に対する回答の和得点を求めた。
- 1回目よりも2回目調査における得点の方が高い生徒、得点に変化しない生徒、得点が低い生徒の3通りに分類し、各校における出現率と、1学年時と2学年時の平均学級規模の差（5人未満、5人以上10人未満、10人以上）でクロス集計を実施した。



考察

- 1学年時での学級規模より2学年時の学級規模が大きくなるほど、家庭学習の取り組み状況が負の方向に変化する生徒が多い傾向が見られる。
- 学級規模を途中から変化（学級規模を大きく）させることは、授業中の学習行動、家庭学習の取り組み状況の両者において、好ましくない方向に変化する生徒が増えることにつながると考えられる。